

平成 28 年度  
事業報告書

社会福祉法人 やながせ福社会

通所介護

大津みやび野デイサービスセンター

## 平成 28 年度 事業目標

「住み慣れた我が家で、ずっと暮らしていきたい」

自宅で自律した生活を維持するためには、身体機能の維持が必要不可欠であり、さらに身体機能の維持・向上は転倒予防にもつながることから、事業所利用時に行なう機能訓練を最大限に活用し、現存機能を高めていくことを目指す。あわせて、体力を養うことは、より良い健康状態へとつながり、住み慣れた我が家での生活の継続を目指す。

- (1) 各職種が連携して機能訓練及び機能訓練に資するアクティビティ活動を午前・午後ともに用意し、利用者に身体を動かす機会をより多く提案・実施していく。また、メニューやプログラムにも日々変化をもたせるなど、楽しく取り組める工夫に努める。
- (2) 身体機能に関する評価を数値化し、その内容を分かりやすく利用者に提示することによって、機能訓練に対する意欲の喚起に努める。また、利用者本人に加えて、家族や介護支援専門員にも評価内容を開示していくことで、状態把握や今後の目標に対して、共通の見解や認識を持った対応ができるように努める。

## 平成 28 年度 事業報告

在宅生活を維持するためにも、本人の意欲が低下せず継続してデイサービスを利用し機能訓練に取り組んでいくことが重要となる中で、毎月の歩行訓練を兼ねた外出支援はアンケートを実施した中でも大変好評の状況である。また、利用者からの繋がりで新規利用へと繋がるケースもあり、「楽しく、他者にも勧めたい」と評価を頂け、利用実績も増加傾向である。ただ、事故報告において数件の転倒報告があり、その中には骨折に至るものもありました。今後は事故を少しでも減らすことが課題です。

- (1) 機能訓練を午前・午後で実施していく上で、午後より実施する訓練ではメニューを週ごとに変化をもたせることができ、生活相談員や介護職員、看護職員なども平行棒や施設外での歩行訓練、訓練指導員が実施する訓練の補助を行うことで連携が持て、職員全体で支援を実施できた。
- (2) 身体機能に関する評価については機能訓練計画書を作成し、毎月の握力や歩行能力等の測定を行うことで、利用者やその家族にもわかりやすく提示することができている。状態把握に関しては都度、会議やミーティングで話し合いの時間を持ち、介護支援専門員に対して対応の検討や利用時の報告が出来ている。課題としては利用者ごとの目標や機能訓練に対する認識に関して職種間での理解差を解消することである。

## 平成 28 年度 事業運営総括

### 1. 利用実績について

定員が 30 名となり一年が終了したが、毎月の外出支援や機能訓練のプログラム追加により着実に利用実績も増え、稼働率も 81.2%と増加できた。当該事業所では日常生活動作を自力で行える方も多いことから、月別の実績を比較した際、お盆や年末年始、地域の祭事がある月は利用を休まれる方が多く、利用実績が下がることが読み取れた。また、比較的介護度が軽度の利用者が多いことから利用者自身の都合等により突然キャンセルされる方もおり、登録人員はほぼ満員に近い状態ながら稼働率が上がらないという現状もある。

### 2. 利用者状況について

要支援者、要介護 1、2 の方の割合が多く、利用回数で見ても週に 1 回～2 回利用される方の割合が高くなっている。居宅介護支援事業所からの紹介は当然ながら、友人に声を掛けて誘ったり、誘われたりして利用をされている方の割合も多いため、飽きられないプログラム構成等に常に注意を払う必要がある。

行事報告

	行 事	趣味・生きがい活動	レクリエーション及び体操
4月	お花見	手芸・カレンダー作り	輪投げゲーム 平行棒運動 壁画制作
5月	世代間交流	手芸・塗り絵	物送りゲーム 棒体操 壁画制作
6月	外出支援(あじさい観賞)	手芸・間違い探し	記憶力ゲーム 階段昇降運動 壁画制作
7月	世代間交流	手芸・脳トレーニング	風船バレー 下肢運動 壁画制作
8月	外出支援(海見物)	手芸・塗り絵 脳トレーニング	ボールゲーム 上肢運動 壁画制作
9月	世代間交流	間違い探し 脳トレーニング	玉入れゲーム 階段昇降運動 壁画制作
10月	外出支援(コスモス観賞)	手芸・塗り絵 脳トレーニング	ボーリングゲーム 歩行訓練 壁画制作
11月	外出支援(紅葉観賞)	裁縫・脳トレーニング	トランプゲーム 平行棒運動 壁画制作
12月	クリスマス会	塗り絵・手芸	神経衰弱 棒体操 クリスマスプレゼント作り
1月	初詣	手芸 カレンダー作り	かるた 階段昇降運動 壁画制作
2月	外出支援(梅観賞) バレンタインプレゼント作成	手芸・裁縫	点取りゲーム 平行棒運動 階段昇降運動
3月	外出支援(菜の花鑑賞)	手芸・アクセサリー作り	ブロック積み おもりを使った体操 壁画製作

	行 事	趣味・生きがい活動	レクリエーション及び体操
定期的	お誕生会 ボランティアによる芸の出し物(大正琴・演奏会など)	書道、ちぎり絵、手芸	メドマー、マイクロサーミー、 ホットパック、ラジオ体操、スト レッチ体操

要介護度の状況 《平均要介護度 介護 1.23》

平成29年3月31日 現在

	人数	割合
要支援1	17	18%
要支援2	25	27%
要介護1	27	29%
要介護2	10	11%
要介護3	7	8%
要介護4	4	4%
要介護5	3	3%
合計	93	100%

月間利用実績(人数)

平成28年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	17	16	17	15	16	19	19	17	17	16	18	17	204
要支援2	24	23	24	25	24	24	24	27	28	27	25	25	300
要介護1	24	24	27	26	26	26	23	24	24	25	25	27	301
要介護2	15	15	14	12	11	11	11	14	12	10	11	10	146
要介護3	5	7	8	8	7	7	6	9	9	8	7	7	88
要介護4	1	1	1	1	3	3	3	3	3	4	4	4	31
要介護5	1	1	1	1	2	1	1	2	2	3	4	3	22
合計	87	87	92	88	89	91	87	96	95	93	94	93	1,092

月間利用実績(延べ人数) 《稼働率 定員30人時:81.2%》

平成28年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	65	63	72	60	73	79	75	70	67	61	65	62	812
要支援2	162	157	161	173	174	176	171	192	189	183	164	195	2,097
要介護1	203	196	207	207	206	201	181	200	182	183	186	229	2,381
要介護2	117	137	119	111	105	106	106	118	88	67	75	68	1,217
要介護3	43	52	56	60	48	46	50	55	53	45	34	35	577
要介護4	7	7	6	9	25	25	26	25	21	50	47	42	290
要介護5	9	9	8	9	11	9	9	9	10	14	19	17	133
合計	606	621	629	629	642	642	618	669	610	603	590	648	7,507

開所日数

平成28年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	26	26	26	27	26	26	27	25	24	24	24	27	308

曜日別延べ利用実績

平成28年度

	月	火	水	木	金	土	合 計
人 数	1,239	1,296	1,336	1,216	1,231	1,189	7,507
割 合	17%	17%	18%	16%	16%	16%	100%

1週当たり平均利用人員

平成28年度

	月	火	水	木	金	土	合 計	1日平均
人 数	24.3	25.4	25.7	23.8	23.7	23.3	146.20	24.37
割 合	17%	17%	18%	16%	16%	16%	100%	—

回数別利用人員

平成29年3月31日 現在

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	合 計
人 数	30	42	16	1	2	1	92
割 合	33%	46%	17%	1%	2%	1%	100%

保険者の状況

平成29年3月31日 現在

保 険 者	人 数
姫 路 市	89
太 子 町	3
合 計	92

年齢別構成状況

平成29年3月31日 現在

	65歳以下	65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	90歳以上	合 計
		から 70歳未満	から 75歳未満	から 80歳未満	から 85歳未満	から 90歳未満		
男	0	0	7	4	3	7	2	23
女	1	1	7	10	23	22	5	69
全 体	1	1	14	14	26	29	7	92

日常生活状況

平成29年3月31日現在

区 分		実数	割合
歩 行	自 立 歩 行	53	57.6%
	杖等の歩行補助器使用	30	32.6%
	車椅子使用	9	9.8%
食 事	自分で可能	89	96.7%
	一部介助	3	3.3%
	全部介助	0	0.0%
入 浴	自分で可能	49	53.2%
	一部介助	38	41.3%
	全部介助	5	5.5%
着 替	自分で可能	54	58.7%
	一部介助	33	35.8%
	全部介助	5	5.5%

区 分		実数	割合
排 泄	自分で可能	81	88.0%
	介 助	11	12.0%
	内おむつ使用	0	0.0%
認 知 症 老 人		33	35.9%

対 象 人 数	92
---------	----

## 職員間の内部研修の実施状況

研 修 名	研 修 内 容	参 加 職 種	参 加 人 数	期 間	講 師 (職・氏名)
基本理念・接遇研修	法人理念・服務の心得・接遇・個人情報保護についての取り扱いについて	全常勤	36名	4月1日	施設長 (細野欣之)
人権研修	身体拘束等意識について	介護職員 看護職員	53名	5月11日～5月18日 (4回)	介護支援専門員 (河崎文武)
食中毒研修	食中毒の原因、対策について	全職種	54名	6月8日～6月25日 (4回)	管理栄養士 (和田奈保美)
生活習慣病研修	産業界による健康診断の総評及びび癌について	全職種	57名	7月25日	嘱託医 (久保精一郎)
リスクマネジメント研修 (ヒヤリハットについて)	ヒヤリハットの活用方法について	全職種	58名	7月26日～8月12日 (4回)	リスクマネジメント委員会 (生活相談員・嶺下隆史)
排泄ケア研修	陰部洗浄の必要性及びその手順について	介護職員 看護職員	46名	7月6日～7月23日 (3回)	排泄委員会 ユニチャーム研修担当者
褥瘡研修	褥瘡の理解について	介護職員 看護職員	45名	8月3日～8月13日 (4回)	褥瘡委員会 (看護師)
入浴介助研修	入浴マニユアル (入浴介助、準備、掃除、事前確認) について	介護職員 看護職員	29名	9月21日～9月28日 (4回)	入浴委員会
記録研修	記録 (目的、種類、とり方) について	介護職員 看護職員	50名	10月19日～10月29日 (4回)	ユニットリーダー (各ユニットリーダー)
感染症対応研修	吐しゃ物処理対応について	介護職員 看護職員	52名	11月16日～11月26日 (4回)	ユニットリーダー (各ユニットリーダー)
看取りケア研修	看取りについての考え方やケアについて	介護職員 看護職員	30名	12月7日～12月24日 (4回)	介護支援専門員 (河崎文武)
食事研修	適切なとろみ剤の濃度及び使用法の統一について	介護職員 看護職員	35名	1月11日～1月28日 (4回)	食事委員会 ユニットリーダー 研修担当者
介護保険研修	介護保険制度の概要について	介護職員 看護職員	43名	2月8日～2月25日 (4回)	居宅介護支援専門員 (岸早春・安房加代子)
腰痛予防研修	腰痛対策について	介護職員 看護職員	21名	3月1日～3月7日 (2回)	株式会社たんぼぼ
リスクマネジメント研修	事故報告書及び危険予知について	全職種	20名	3月18日～3月29日 (4回)	リスクマネジメント委員会 (生活相談員・嶺下隆史)

参加人数は併設事業所も含む。



## 法人研修

研修名	研修内容	参加職種	参加人数	期間	講師(職・氏名)
セイフティマネジメント研修	「セイフティマネジメント」と「リスクマネジメント」について(講義)	全常勤	43名	6月7日	株式会社CMI代表取締役 (丸岡義明先生)
介護業界とサービス研修	福祉産業、介護業界でのサービスについて(講義)	全常勤	76名	10月24日～10月28日 (3回)	勝原第二デザインサービス (管理者・辻勝彦)

参加人数は併設事業所も含む。

職員の外部研修の受講状況

研修名	研修内容	参加職種	参加人員	日付	期間	場所	研修結果の報告方法
新入社員接遇研修	接遇研修・自施設理念の理解と人権意識	介護職員	1名	5月13日	1日間	姫路市商工会議所	口頭・復命
平成28年度第一回認知症介護実践者研修	認知症介護実践者研修	管理者	1名	6月4日	5日間	総合リハビリテーションセンター	口頭・復命
平成28年度第一回認知症介護実践者研修	認知症介護実践者研修	管理者	1名	8月9日	3日間	総合リハビリテーションセンター	口頭・復命
平成28年度第一回認知症介護実践者研修	認知症介護実践者研修	管理者	1名	8月30日	1日間	総合リハビリテーションセンター	口頭・復命
平成28年度介護サービス事業者に対する集団指導	介護サービス事業者に対する集団指導	管理者	1名	10月26日	1日間	姫路市文化センター	口頭・復命
職員研修	メンタルマネジメントと自己覚知	管理者	1名	11月15日	1日間	姫路市医師会館	口頭・復命
平成28年度デイ部会職員研修会	初動対応に強い、考えるべき記録の書き方	管理者 生活相談員	2名	11月25日	1日間	兵庫県福祉センター	口頭・復命
平成28年度能力開発啓発セミナー	介護事業所におけるスーパービジョン～キヤリアップの構築とキーポイント～	管理者	1名	12月9日	1日間	西はりま地場産業センター	口頭・復命
平成28年度デイ部会管理者研修会	役員改選・講演「地域支援事業」	管理者	1名	2月9日	1日間	兵庫県福祉センター	口頭・復命
水害・土砂災害への備えに関する要配慮者利用施設者向け説明会	・砂防に関する防災情報収集について ・介護保険施設の非常災害対策・安全の確保について	管理者	1名	3月22日	1日間	神戸文化ホール	口頭・復命

避難訓練の実施状況

実施日	訓練種目	訓練内容
6月17日	みやび野エリア 合同火災訓練	避難経路と避難誘導の流れと他部署間の連携確認 通報装置や脱出シュートの確認 (隣接特養合同実施)
9月21日	みやび野エリア 合同火災訓練	避難誘導の流れの確認と他部署間の連携 マニュアルを活用しての自然災害時の対応確認 (隣接特養合同実施)
12月14日	みやび野エリア 合同火災訓練	避難経路と避難誘導の流れと他部署間の連携確認 通報装置や脱出シュートの確認 (隣接特養合同実施)
2月2日	避難訓練	避難経路と避難誘導の流れと他部署間の連携確認

苦情対応

受付日	苦情内容	苦情対応
平成 28 年 9 月 12 日	<p>「運転中の携帯電話の操作について」</p> <p>近隣住民より職員が送迎中に携帯電話を使用していると指摘を受ける。</p>	<p>① 送迎時にやむを得ず連絡を行う際は、安全に留意し、路肩に停車してから対応を行う。</p> <p>② 管理者より職員に対して苦情の詳細を説明し、再発防止を徹底する。</p>
平成 28 年 9 月 29 日	<p>「誤解を招く言動について」</p> <p>職員の利用者への対応が暴力行為のように見え、適切でないとの利用者より申し出を受ける。</p>	<p>① ミーティングの場及び職員会議にて全員に対して苦情の詳細を伝え、接遇の徹底を伝える。</p> <p>② 利用者及び家族等から意見をいただいた際は、速やかに管理者や相談員に報告することを徹底する。</p>
平成 28 年 11 月 7 日	<p>「職員の不適切な声掛けについて」</p> <p>職員の声掛けの内容に対して「怒られている」と感じられた利用者から利用を見合わせるとの申し出を受ける。</p>	<p>① 利用者及び家族に対して謝罪を行う。</p> <p>② 全職員に対して管理者よりミーティングや職員会議にて接遇の徹底、声掛けの内容によっては相手を傷つける可能性を説明し注意する。</p> <p>③ 職員間にてお互いに注意し合うように話し合いを持つ。</p>
平成 29 年 2 月 8 日	<p>「連絡調整の不備について」</p> <p>新規利用者の方が施設の雰囲気、環境に合わず急遽帰宅されることとなり、デイを利用せずに帰宅された。しかし、担当ケアマネジャーと家族に対して報告の連絡に不備があり、後ほど申し出を受ける。</p>	<p>① 家族及び担当介護支援専門員に対して謝罪を行う。</p> <p>② ミーティングにて報告・連絡・相談における重要性について全職員に伝える。</p> <p>③ 突発的な事象に対して相談及び報告が機能するよう事業所内職員連絡網の見直しを行う。</p>

事故対応

発生日	事故内容	事故対策
平成 28 年 4 月 6 日	<p>「利用予定調整ミス」</p> <p>提供票と事業所内で作成している送迎表の内容に齟齬があったことで当日利用ではない利用者を誤って迎えに行ってしまう。事業所に到着した後に担当ケアマネジャーより本人の所在確認を行う連絡があったため、速やかに自宅へとお連れし、誤りについての謝罪を行う。</p>	<p>① 毎月の提供表確認を徹底し、送迎表に記入する際に間違いがないよう職員二人で確認する。</p> <p>② 予定変更について等は今まで通り連絡ノートに記載し、情報共有を徹底する。</p>
平成 28 年 4 月 9 日	<p>「利用者の所在確認」</p> <p>利用者の親族が隣接のショートステイを利用されていたため、面会に行かれるが、所在確認が出来ておらず、検索する結果となる。ショートステイの職員からの連絡により所在を確認する。</p>	<p>① 身体状況や認知力の状態に関わらず、利用者の所在確認は都度行う。</p> <p>② 万が一、施設外へと出た際に検索できるように利用者の顔写真を管理する。</p>
平成 28 年 8 月 4 日	<p>「請求誤り」</p> <p>「日割り計算」や「加算の誤請求」に対して誤りがあったことが国保連合会からの通知によって判明する。速やかに過誤請求を行い、誤り分の金額を返却する。</p>	<p>① 月末の実績確認時に加算の算定等が適切かどうかの確認を行う。</p> <p>② 提供票に対して加算の誤りがないかを都度確認し、間違いがあれば担当ケアマネジャーへ報告する体制を作る。</p>
平成 28 年 12 月 12 日	<p>「転倒事故」</p> <p>フロア内にて職員の手伝いをしようとされ、カウンターの段差を踏み外し転倒される。すぐに状態確認を行うと痛みが強かったため、整形外科受診を行う。結果、左鎖骨骨折と腰椎圧迫骨折と診断を受け、コルセットにて固定しての治療となる。</p>	<p>① カウンターの扉はスイング式になっていたため、鍵をつけて固定式に修繕する。</p> <p>② 職員会議で事業所内における危険箇所について話し合い、リスク管理意識の向上と環境整備における機会を持つ。</p>